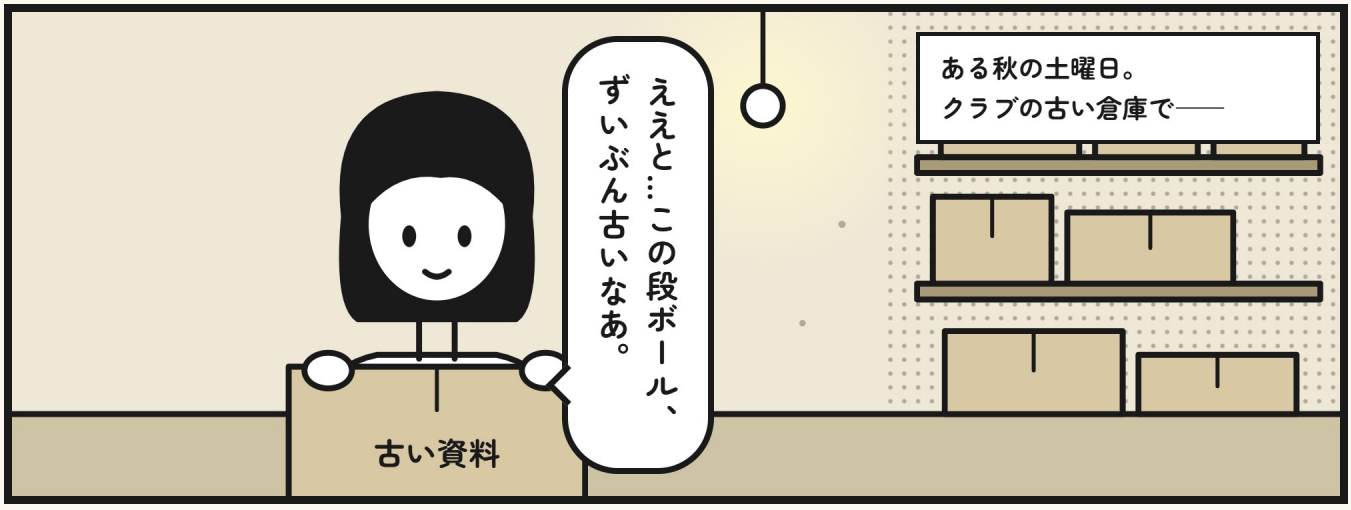
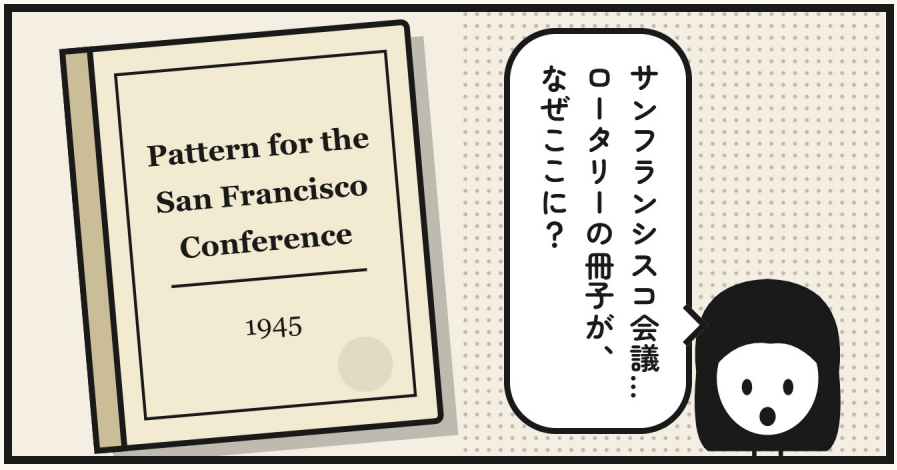
# サンフランシスコへの手紙







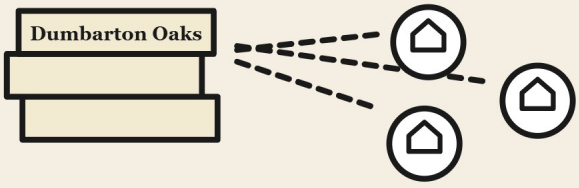




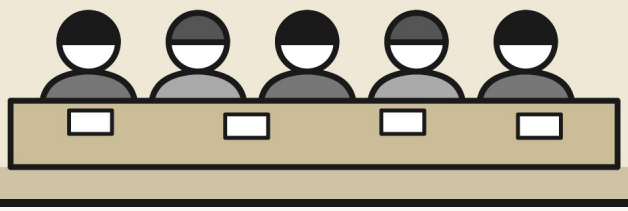




ロータリーは冊子を世界のクラブへ送り続けた。会員みんなで話し合えば、よい世論が育つ——それが信念だった。

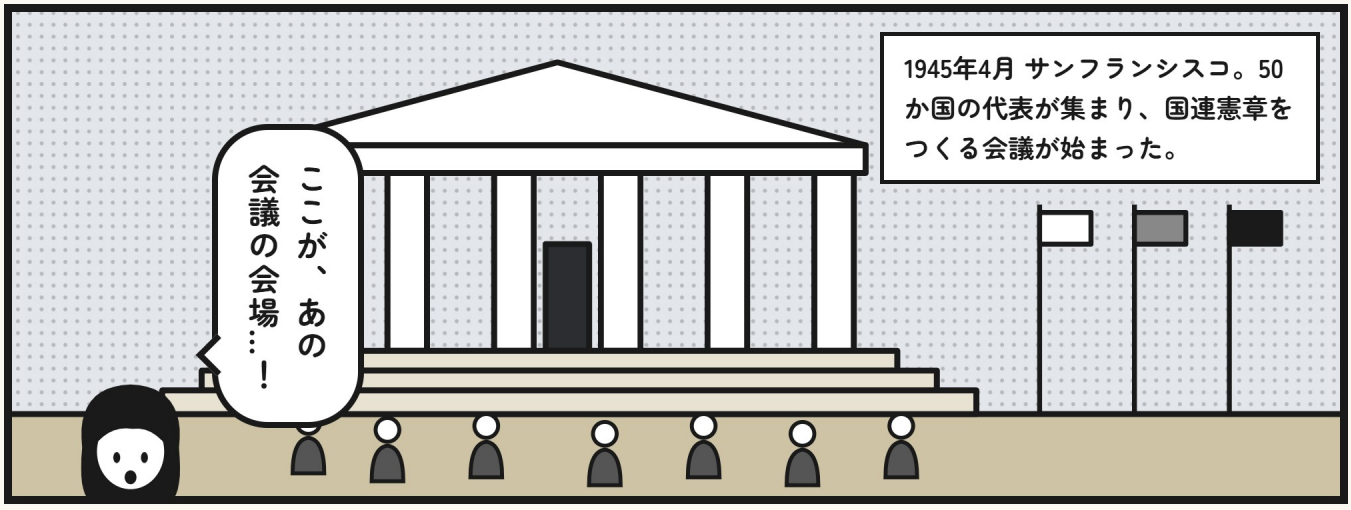


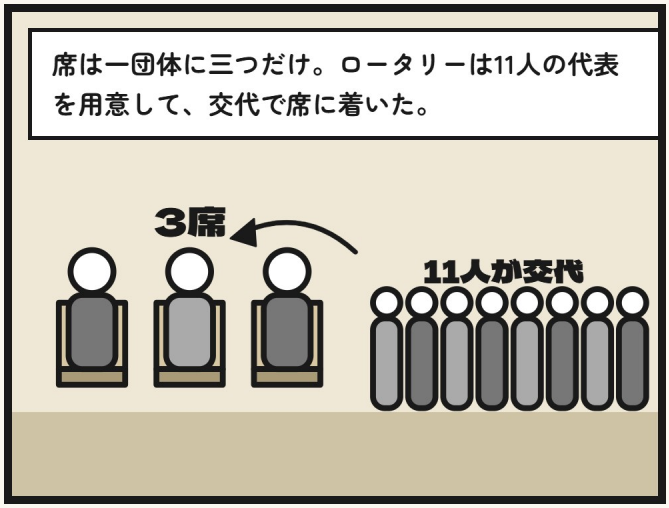

戦後の教育と文化の再建を話し合うこの会議が、のちのユネスコ誕生のきっかけになった。

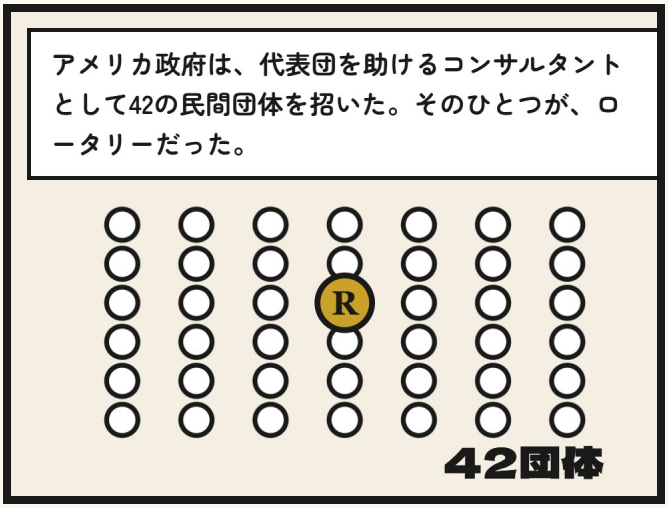


# 招かれた42の団体



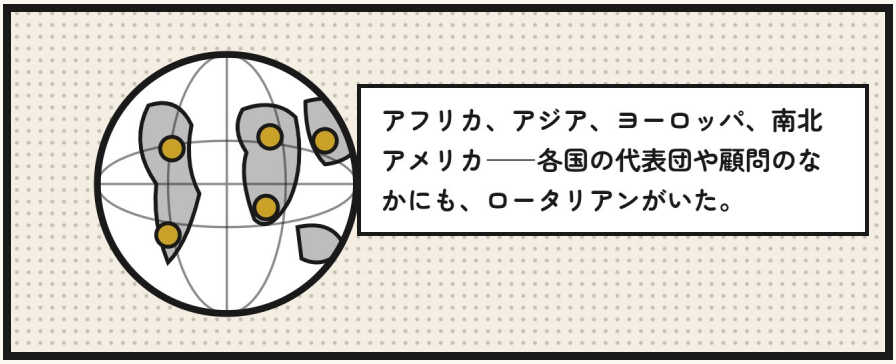

1945年4月 サンフランシスコ。50か国の代表が集まり、国連憲章をつくる会議が始まった。
ここが、あの会議の会場…！


席は一団体に三つだけ。ロータリーは11人の代表を用意して、交代で席に着いた。
3席
11人が交代


アメリカ政府は、代表団を助けるコンサルタントとして42の民間団体を招いた。そのひとつが、ロータリーだった。
R
42団体


代表には事務総長、会長、歴代会長、機関誌の編集長らが名を連ねた。
あっ…みんな同じバッジ！
国は違っても、同じバッジなら、すぐに話せるんだ。


世界中に、仲間がいる…！

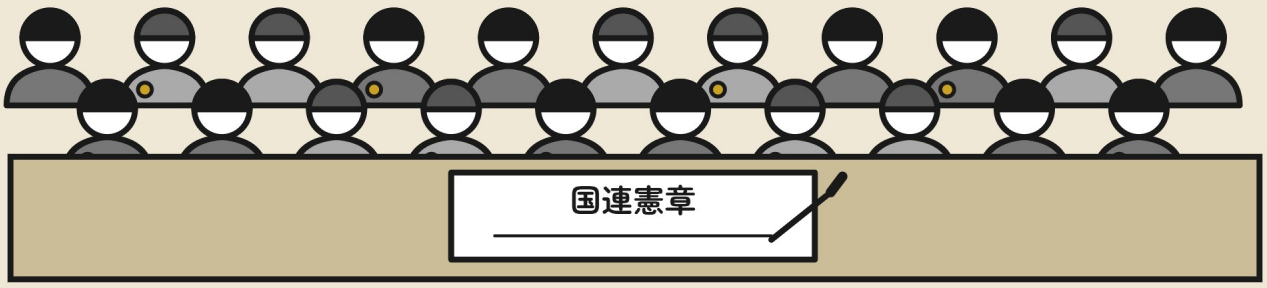

アフリカ、アジア、ヨーロッパ、南北アメリカ——各国の代表団や顧問のなかにも、ロータリアンがいた。

# 憲章に刻まれたもの



**49人**

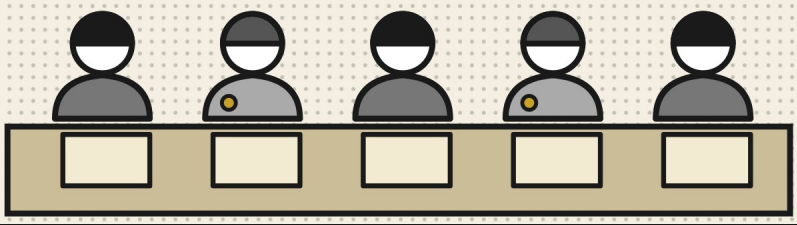
6月、国連憲章が署名された。この憲章づくりを助けたロータリアンは、49人と伝えられている。







会議のあと、機関誌『The Rotarian』は会議の様子を会員に報告した。世界のクラブで、その歩みが読まれた。



毎年「ロータリー国連デー」が開かれ、国連総会の議長を務めたロータリアンは、これまでに5人にのぼる。

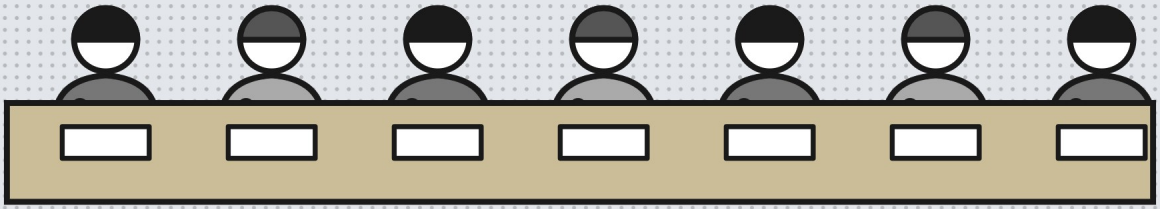
**5人**




会議のあとも、ロータリーは国連の意義を会員とその地域に伝え続けた。




現在も、ロータリーは国連の主要機関のひとつ「経済社会理事会(ECOSOC)」で、非政府組織に与えられる最高位の諮問資格「総合諮問資格」を持ち、代表たちが活動している。



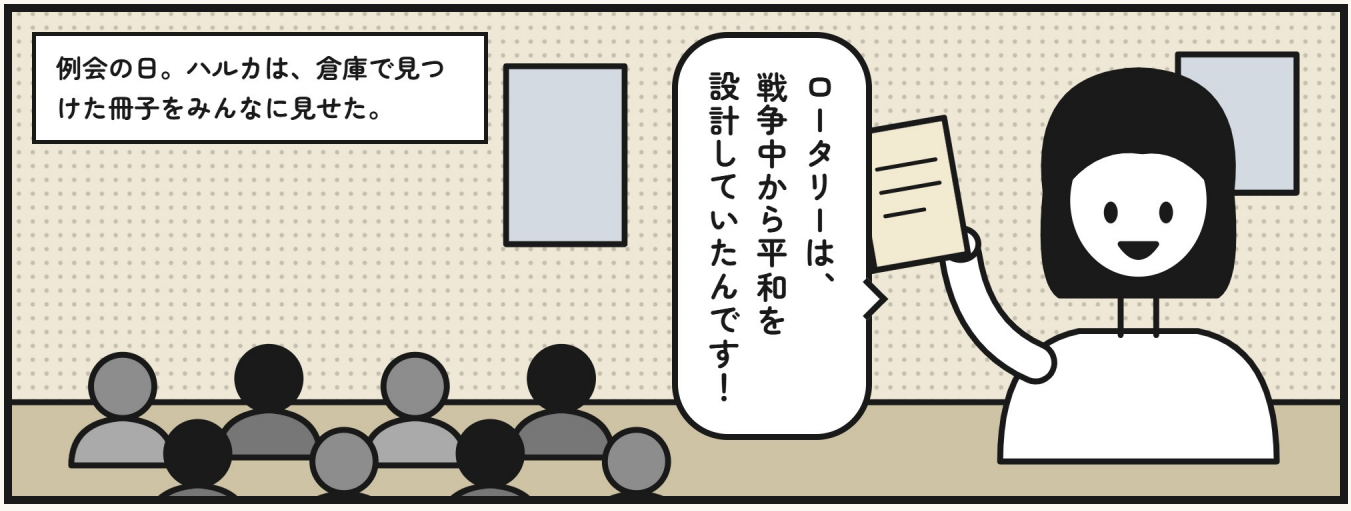
# 世界を変える記録












## 戦争のあとを、戦争中から考えた。

- **1942** ロンドン会議（のちのユネスコ）
- **1943** 中心となる世界機関を提唱
- **1944** ダンバートン・オークス冊子
- **1945** サンフランシスコ会議に参加

おわり